資料2

環境調査結果について

（1） 排ガス調査結果

調査機関 ： 株式会社環境技術研究所

項目	基準値		炉	調査年月日				単位
	法律	協定書	1号	令和7年9月10日	令和7年11月28日	令和8年1月20日	令和8年2月26日	
			2号	令和7年9月9日	令和7年10月22日	令和8年1月29日	令和8年2月27日	
ばいじん	0.04	0.01	1号	<0.001	<0.001	0.001	<0.001	g/m^{3}N
			2号	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	
硫黄酸化物	91	10	1号	<1	<1	<1	<1	ppm
			2号	<1	<1	<1	<1	
窒素酸化物	85	50	1号	22	33	29	30	ppm
			2号	15	27	28	30	
塩化水素	430	10	1号	<2	<2	<2	<2	ppm
			2号	<2	<2	<2	<2	
水銀	50	－	1号	0.20	0.077	0.29	0.26	μg/m^{3}N
			2号	0.28	0.20	0.037	0.33	

（注）

1　各項目の値は、酸素濃度12%換算値です。

2　m^{3}N（ノルマル立方メートル）は、0℃、1気圧の標準状態における気体の体積を表します。

3　ppmは、100万分の1の割合を表します。

【補足説明】
すべての項目において基準値を満足しており、良好でした。
今後も排ガス基準値の遵守に努めてまいります。

（2） 排水調査結果

調査機関 ： ユーロフィン日本環境株式会社

No.	項　目	基準値	調査年月日			単位
			令和7年10月1日	令和7年12月2日	令和8年2月2日	
1	温度	45未満	28.9	17.3	15.1	℃
2	水素イオン濃度（pH）	5を超え9未満	7.5	7.9	8.0	—
3	生物化学的酸素要求量（BOD）	600未満	60	2	2	mg/L
4	浮遊物質量（SS）	600未満	20	3	1	mg/L
5	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	30以下	1	<1	<1	mg/L
6	フェノール類	5以下	<0.05	<0.05	<0.05	mg/L
7	銅及びその化合物	3以下	<0.01	<0.01	<0.01	mg/L
8	亜鉛及びその化合物	2以下	<0.01	<0.01	<0.01	mg/L
9	鉄及びその化合物（溶解性）	10以下	0.2	0.1	<0.1	mg/L
10	マンガン及びその化合物（溶解性）	10以下	<0.1	<0.1	<0.1	mg/L
11	クロム及びその化合物	2以下	<0.01	<0.01	<0.01	mg/L
12	窒素含有量	120未満	12	5.3	10	mg/L
13	燐含有量	16未満	0.33	<0.05	<0.05	mg/L
14	沃素消費量	220未満	37	17	20	mg/L
15	カドミウム及びその化合物	0.03以下	<0.001	<0.001	<0.001	mg/L
16	シアン化合物	1以下	<0.02	<0.02	<0.02	mg/L
17	有機燐化合物	1以下	<0.1	<0.1	<0.1	mg/L
18	鉛及びその化合物	0.1以下	<0.01	<0.01	<0.01	mg/L
19	六価クロム化合物	0.2以下	<0.01	<0.01	<0.01	mg/L
20	砒素及びその化合物	0.1以下	<0.01	<0.01	<0.01	mg/L
21	水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物	0.005以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	mg/L

No.	項　目	基準値	調査年月日			単位
			令和7年10月1日	令和7年12月2日	令和8年2月2日	
22	アルキル水銀化合物	検出されないこと	<0.0005	<0.0005	<0.0005	mg/L
23	ポリ塩化ビフェニル（PCB）	0.003以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	mg/L
24	トリクロロエチレン	0.1以下	<0.01	<0.01	<0.01	mg/L
25	テトラクロロエチレン	0.1以下	<0.01	<0.01	<0.01	mg/L
26	ジクロロメタン	0.2以下	<0.02	<0.02	<0.02	mg/L
27	四塩化炭素	0.02以下	<0.002	<0.002	<0.002	mg/L
28	1,2-ジクロロエタン	0.04以下	<0.004	<0.004	<0.004	mg/L
29	1,1-ジクロロエチレン	1以下	<0.1	<0.1	<0.1	mg/L
30	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.4以下	<0.04	<0.04	<0.04	mg/L
31	1,1,1-トリクロロエタン	3以下	<0.1	<0.1	<0.1	mg/L
32	1,1,2-トリクロロエタン	0.06以下	<0.006	<0.006	<0.006	mg/L
33	1,3-ジクロロプロペン	0.02以下	<0.002	<0.002	<0.002	mg/L
34	ベンゼン	0.1以下	<0.01	<0.01	<0.01	mg/L
35	1,4-ジオキサン	0.5以下	<0.05	<0.05	<0.05	mg/L
36	シマジン	0.03以下	<0.003	<0.003	<0.003	mg/L
37	チオベンカルブ	0.2以下	<0.02	<0.02	<0.02	mg/L
38	チウラム	0.06以下	<0.006	<0.006	<0.006	mg/L
39	セレン及びその化合物	0.1以下	<0.01	<0.01	<0.01	mg/L
40	ふっ素及びその化合物	8以下	0.26	0.19	0.27	mg/L
41	ほう素及びその化合物	10以下	0.83	0.42	0.60	mg/L

【補足説明】
すべての項目において基準値を満足しており、良好でした。
今後も排水基準値の遵守に努めてまいります。

（3） 騒音調査結果

調査年月日 ： 稼働時　令和7年12月15日（月）～ 12月16日（火）
停止時　令和7年11月12日（水）～ 11月13日（木）

調査機関：株式会社CTIウイング

単位：デシベル

時間区分	昼間			夕			夜間			朝		
調査時間	（13時～14時）			（20時～21時）			（0時～1時）			（7時～8時）		
調査地点	基準値	稼働時	停止時	基準値	稼働時	停止時	基準値	稼働時	停止時	基準値	稼働時	停止時
S-1	50	45	45	45	44	43	45	46	42	45	49	48
S-2		46	46		46	44		46	43		49	49
S-3		45	45		45	44		45	43		48	48
S-4		45	45		46	44		46	44		49	48
S-5		47	43		44	41		43	39		46	44
S-6		43	45		42	38		42	38		45	41
S-7		39	44		39	35		40	35		43	39
S-8		40	40		41	37		41	36		43	39
S-9		38	37		38	36		39	36		42	38
S-10		44	38		40	39		41	39		45	41
S-11		40	39		49	41		49	39		51	40
S-12		36	36		38	38		37	35		39	37
S-13		41	40		42	41		43	40		43	42
S-14		42	41		43	41		43	41		44	42
S-15		43	43		44	43		44	42		46	44
S-16		45	45		45	44		45	44		47	45

（調査地点は、P.6を参照してください。）

【調査機関の見解】
練馬清掃工場における騒音測定結果と基準値を比較すると、S-2、S-4、S-11 の夕の時間帯、S-1、S-2、S-4、S-11 の夜の時間帯、S-1～5、S-11、S-15、S-16 の朝の時間帯で基準値を超過していた。S-11 においては近隣の室外機音、S-1～5、S-15、S-16 においては周辺道路の交通騒音の影響があったと推察される。

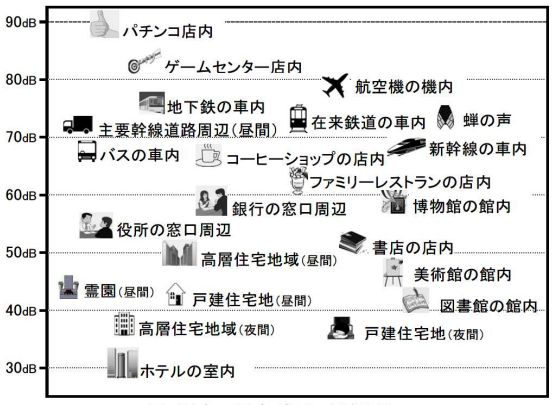


図　騒音の目安（都心・近郊用）
（出典「全国環境研協議会　騒音小委員会）

【補足説明】
引き続き、設備稼働音の抑制、構内走行速度の遵守やアイドリングストップの徹底等、騒音の低減に努めてまいります。

（4） 振動調査結果

調査年月日 ： 稼働時 令和7年12月15日（月）～ 12月16日（火）

停止時 令和7年11月12日（水）～ 11月13日（木）

調査機関：株式会社CTIウイング

単位：デシベル

時間区分	昼間			夜間		
調査時間	（13時～14時）			（0時～1時）		
調査地点	基準値	稼働時	停止時	基準値	稼働時	停止時
V-1	60	47	44	55	31	29
V-2		48	44		32	28
V-3		47	44		33	29
V-4		46	43		28	25
V-5		42	38		33	27
V-6		34	31		27	25
V-7		32	27		25	25
V-8		38	32		29	26
V-9		36	34		25	25
V-10		38	34		26	25

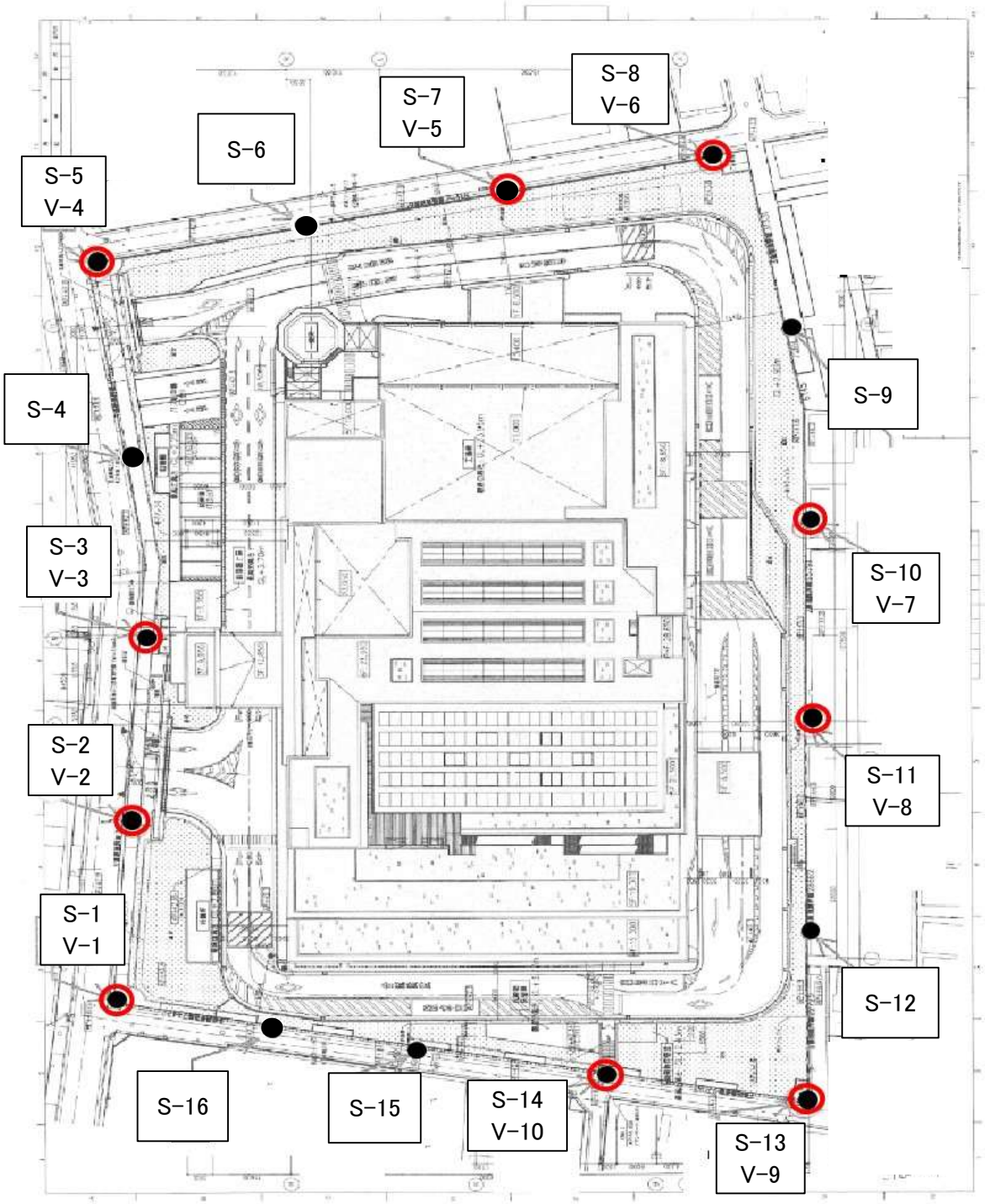
（調査地点は、P.6を参照してください。）

【振動のめやす】 出典：「東京の環境2011」（東京都環境局）

デシベル	50	60	70	80	90
状態	人体に感じない程度	静止している人にだけ感じる	大勢の人に感じる程度で、戸、障子がわずかに動く	家屋が揺れ、戸、障子がガタガタと音をたてる	家屋が激しく揺れ、すわりの悪いものが倒れる

【補足説明】
すべての調査地点において基準値を満足しており、良好でした。
今後も基準値の遵守に努めてまいります。

騒音・振動調査地点位置図



凡　例	
●	騒音調査地点
○	振動調査地点
S-〇	騒音調査地点番号(1～16)
V-〇	振動調査地点番号(1～10)

N

（5） ごみ性状調査結果

調査機関 ： ユーロフィン日本環境株式会社

（ごみの物理組成（湿ベース重量%））

分類項目＼調査年月日		令和7年度第3回 令和7年10月1日	令和7年度第4回 令和8年1月16日	平均値
可燃物		99.04	99.06	99.05
	紙類	38.80	45.27	42.03
	繊維	4.34	4.35	4.34
	厨芥	27.23	24.95	26.09
	木草	7.88	2.98	5.43
	プラスチック類	17.52	17.41	17.47
	ゴム・皮革	1.24	1.17	1.20
	その他可燃物	2.02	2.93	2.47
不燃物		0.96	0.94	0.95
	金属	0.40	0.35	0.37
	ガラス	0.07	0.16	0.12
	石・陶器	0.00	0.00	0.00
	その他不燃物	0.50	0.43	0.47
合　計		100.00	100.00	100.00

（注）
端数処理のため、平均値または合計が一致しない場合があります。

【補足説明】
前回とほぼ同様の値でした。

（6） ダイオキシン類調査結果

調査機関 ： ユーロフィン日本環境株式会社

項目		基準値	調査値	調査年月日	単　位
排ガス	1号炉	0.1	0.00000015	令和8年1月20日	ng-TEQ/m^3N
	2号炉		0.00000044	令和8年1月29日	

（注）

1　ダイオキシン類は、ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン、ポリ塩化ジベンゾフラン、コプラナーポリ塩化ビフェニルの総称です。

2　TEQ（毒性等量）とは、ダイオキシン類の量を最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値です。

3　値は、酸素濃度12%換算値です。

4　ng（ナノグラム）は10億分の1グラムの質量を表します。

5　m^3N（ノルマル立方メートル）は、0℃、1気圧の標準状態における気体の体積を表します。

【補足説明】
基準値を満足しており、良好でした。
今後も基準値の遵守に努めてまいります。

（7） 周辺大気中のダイオキシン類調査結果

1　調査年月日　令和7年9月8日（月）～9月15日（月）（稼働時7日間連続サンプリング）

2　調査場所　工場及び周辺4か所の計5か所

3　調査方法　ダイオキシン類に係る大気環境調査マニュアル（環境省：令和4年3月）

4　調査機関　ユーロフィン日本環境株式会社

5　調査結果

	調査場所	所在地	調査値	単位
1	練馬清掃工場	練馬区谷原6-10-11	0.0081	pg-TEQ/m^3
2	練馬区立大泉第一小学校	練馬区大泉町3-16-23	0.0084	
3	練馬区立泉新小学校	練馬区三原台3-18-30	0.0075	
5	練馬区立光が丘四季の香小学校	練馬区高松5-24-1	0.0085	
6	練馬区立谷原小学校	練馬区谷原2-9-26	0.0070	

（調査場所は、P.11を参照してください。）

（注）
1　ダイオキシン類は、ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン、ポリ塩化ジベンゾフラン、コプラナーポリ塩化ビフェニルの総称です。
2　TEQ（毒性等量）とは、ダイオキシン類の量を最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値です。
3　pg（ピコグラム）は、1兆分の1グラムの質量を表します。

調査日の天気

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
晴後曇一時雨	晴後曇	雨後曇後晴	晴後雨後曇	雨時々曇	雨後曇	曇後晴後曇

調査日の気象条件（7日間の平均値）

気　温	湿　度	雨　量	主な風向	風　速
27.6℃	73%	52.0mm	東北東	2.3m/s

（注） 雨量は7日間の合計値を示し、風向は最多出現を示します。

6　まとめ

(1)　調査結果の値は、環境省が定める大気中ダイオキシン類の環境基準である0.6 pg-TEQ/m^3（年平均値）と比べ、十分に低い値である。

(2)　練馬清掃工場煙突でのダイオキシン類調査結果（0.0000013 ng-TEQ/m^3N：令和7年7月14日、15 日それぞれの測定結果の平均値）と調査日の気象条件等から大気拡散シミュレーションを行ったところ、拡散倍率は30万倍、周辺大気環境に与える影響は最大で0.0000000045pg-TEQ/m^3Nであり、調査結果と比べて小さい。

(3)　以上のことから、今回の調査結果では練馬清掃工場の排ガス中のダイオキシン類が周辺大気環境に与える影響は極めて小さいといえる。

【補足説明】
すべての調査場所において環境基準を十分に下回っており、練馬清掃工場が周辺環境に与える影響は極めて小さいといえます。

（8） 周辺大気環境調査結果

1 調査年月日　《稼働時》令和7年9月8日（月）～9月13日（土）

《停止時》令和7年11月3日（月）～11月8日（土）

2 調査場所　工場及び周辺6か所の計7か所

3 調査機関　株式会社伊藤公害調査研究所

4 調査結果

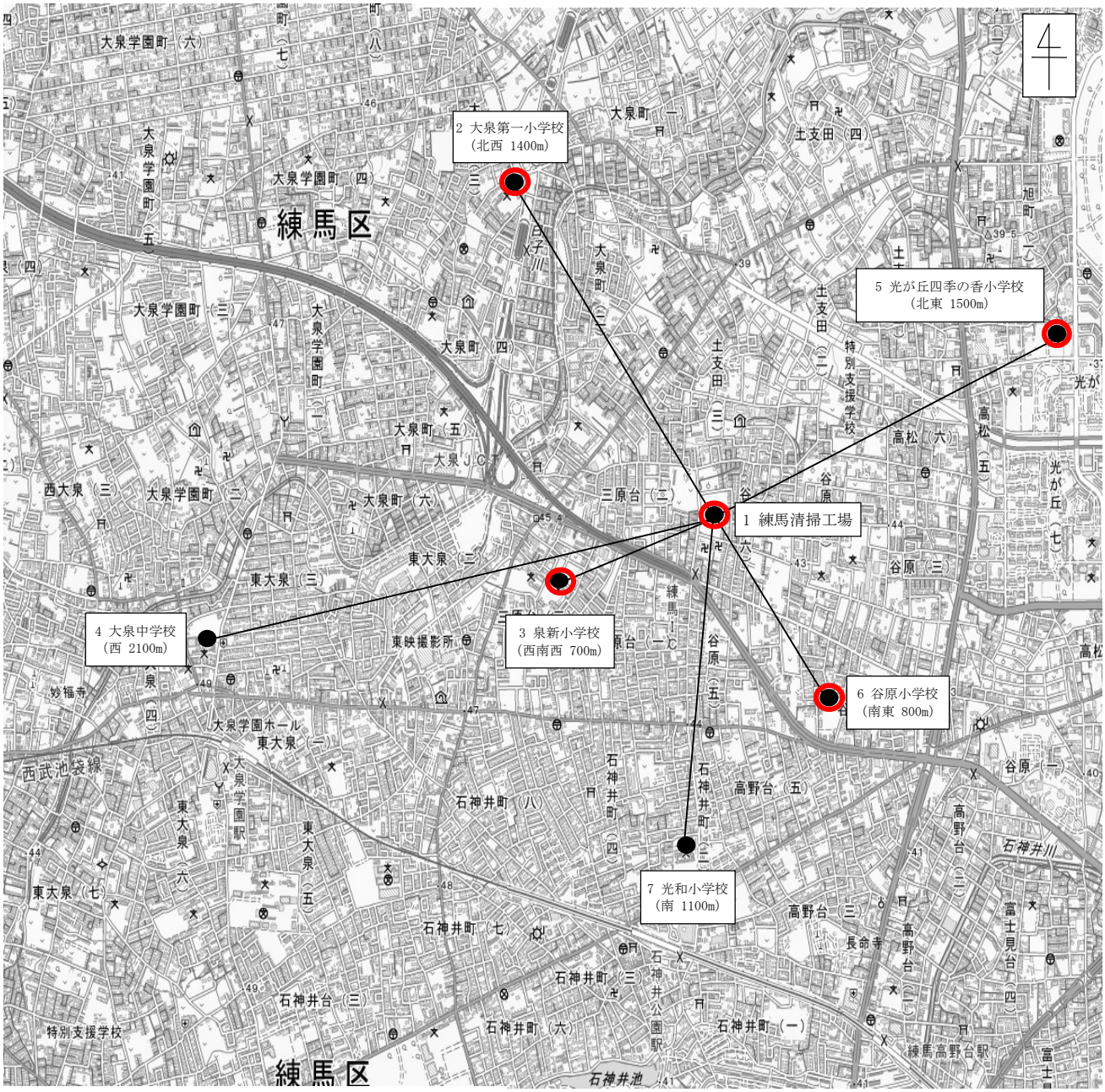
調査場所 / 方位 / 距離			1	2	3	4	5	6	7	
調査項目	単位	区分	練馬清掃工場	大泉第一小学校 北西 1400m	泉新小学校 西南西 700m	大泉中学校 西 2100m	光が丘四季の香小学校 北東 1500m	谷原小学校 南東 800m	光和小学校 南 1100m	平均値
浮遊粉じん	mg/m^3	稼働時	0.022	0.021	0.023	0.018	0.016	0.021	0.021	0.020
		停止時	0.018	0.016	0.022	0.020	0.020	0.018	0.016	0.019
浮遊粉じん中の鉛	μg/m^3	稼働時	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		停止時	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01
浮遊粉じん中のカドミウム	μg/m^3	稼働時	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		停止時	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
硫黄酸化物	ppm	稼働時	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		停止時	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.002	0.001	<0.001	<0.001
窒素酸化物	ppm	稼働時	0.015	0.014	0.017	0.017	0.019	0.011	0.015	0.015
		停止時	0.020	0.029	0.022	0.019	0.025	0.020	0.024	0.023
塩化水素	ppm	稼働時	0.003	0.003	0.002	0.003	0.002	0.003	0.004	0.003
		停止時	0.002	0.002	0.001	0.002	0.002	0.002	0.003	0.002
アンモニア	ppm	稼働時	0.006	0.008	0.009	0.006	0.006	0.008	0.010	0.007
		停止時	0.004	0.005	0.004	0.004	0.004	0.003	0.005	0.004
アルデヒド	ppm	稼働時	0.006	0.006	0.007	0.006	0.006	0.006	0.007	0.006
		停止時	0.003	0.003	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004
全炭化水素	ppm	稼働時	2.7	3.1	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.9
		停止時	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3
水銀	μg/m^3	稼働時	0.0018	0.0016	0.0017	0.0019	0.0016	0.0016	0.0015	0.0017
		停止時	0.0013	0.0016	0.0013	0.0015	0.0015	0.0013	0.0012	0.0014

（調査場所は、P.11を参照してください。）

（注）測定値は季節、気象条件により変動します。

【補足説明】
いずれの物質についても、通常の大気の状態の出現範囲であり、稼働時と停止時の顕著な差は認められず、練馬清掃工場の稼働が周辺の大気環境に与える影響は極めて小さいといえます。

調査場所概略図



国土地理院地図(GSI Maps)を加工して作成

0　500　1000m

凡例	
○	周辺大気中のダイオキシン類調査場所
●	周辺大気環境調査場所

(注) 調査場所の変更
豊渓小学校から光が丘四季の香小学校へ変更(工事中のため)